

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 今回も大幅な雇用増となるか、米雇用統計

2020年8月31日

新型コロナウイルスの感染拡大が世界的に継続する中、先進国を中心にある程度の抑え込みに成功していることや、(結局は) 経済上の問題もあり、厳しいロックダウンの解除や緩和が進んでいます。

米国でもサンベルト地帯(北緯37度線以南の地域、温暖な気候を生かし昔から農業が盛んで、さらにはメキシコ湾岸の石油関連産業や、航空・宇宙など最先端産業も発達している)を中心に新型コロナウイルスの感染拡大が継続しているものの、一時のような厳しい行動制限は控えられており、大きく減少した雇用もV字回復の傾向が見られます。

とはいえ、先行き不透明感が継続、小売業、レストラン、エンターテインメント産業などを中心に倒産してしまった企業も多く、どこまで回復が進むのかは微妙なところとなっています。そうした中で、今週4日に発表される8月の米雇用統計への注目度が高まっています。

前回は非農業部門雇用者数(NFP)が、前月比148万人増の予想に対して、176.3万人増と予想を超える雇用の回復を示しました。NFPは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、3月に137.3万人減、4月に過去最大の落ち込みとなる2078.7万減を記録(ともに修正値、速報時点ではそれぞれ70.1万人減、2053.7万人減)。その後、5月に272.5万人増、6月に479.1万人増、7月に176.3万人増と、3カ月で大きく回復してきましたが、それでも合計は930万人ほど、4月に一月で減った分の半分にも満たない数字。まだまだ大幅に雇用が回復する余地が十分にあります。今回の予想は135万人増と、前回から伸びが鈍化も水準的にはかなり大きな増加が見込まれています。失業率は9.8%と前回の10.2%からさらに改善する見込みです。

前回の内訳を確認すると、もっとも目立っているのがレジャー & ホスピタリティの59.2万人増。同部門は5月が140.5万人増、6月が198.1万人増と2カ月連続でかなり大きく増えていただけに、どこまで7月分で伸ばせるかが疑問視されていましたが、5月、6月ほどではないとはいえ、かなりの伸びを示しました。そのほとんどがバー・レストランなど飲食部門で、ロックダウン緩和による店舗の再開が続いている状況が示されています。この部門は新型コロナウイルスの影響が出る前、2月時点で1230万人が働いており、そこからわずか2カ月後に622.7万人までほぼ半減する勢いで雇用が減少したところだけに、まだ回復余地がありそうです。

小売部門は25.8万人増となりました。こちらも5月の38.6万人増、6月の82.7万人増と比べると伸びが鈍化も、しっかり雇用が増えており、店舗再開の動きが続いていることを印象付けました。

製造業は2.6万人増にとどまりました。5月は24万人増、6月は35.7万人増となりましたが、サービス業に比べると落ち込みが小さかった分、回復余地も小さいこと、工場などの生産設備の回復が6月をピークに一段落していることなどが背景にあります。

これらの数字を見ていくと、雇用の回復ペースは6月が最大であり、今回は7月よりも伸びが鈍化するという見通しは妥当なものに見えます。とはいえ135万人増はかなり

の水準ですが、これまでに3月、4月の減少分の半分も回復していないという状況を考えると、十分にありそうなところではあります。

数字通りもしくはそれ以上の雇用の増加が示されると、米株の上昇などを誘い、円売りの動きが広がる可能性があります。好数字によるドル買いの影響もありますが、27日のパウエル議長講演により米国の超緩和的な政策の長期維持見通しが高まり、ドル売り圧力につながっているだけに影響は微妙なところではあります。

関連指標として1日の米ISM製造業景気指数、2日の米ADP雇用者数、3日の米ISM非製造業景気指数にも要注目。とくにISMは米経済の先行き不透明感との関連もあり、注目度が高まっています。製造業は54.5と前回の54.2からさらに強めに。非製造業はサンベルト地帯での感染拡大の影響や、前回は58.1と強すぎたという面があり57.0と前回よりは弱めの数字が見込まれています。

前回、全体の数字自体は製造業、非製造業ともに強かったですが、雇用部門はともに弱めに出ていただけに、同部門での数字にも要注目です。好悪判断の境となる50を超えてくると雇用統計本番への期待感が相当強まる可能性があります。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。